

仙台教区教化委員会社会部・部落差別に学ぶ協議会主催

非戦平和パネル展

さき とびら

「一 前を訪う 今、 この時代に聞く 非戦・平等の願い 一」

【趣旨文】

このたび仙台教区では、明治期に生きられた高木顕明という、一人の真宗僧侶の生涯を取り上げたパネル展を企画いたしました。

顕明師は当時、日本社会全体が日露戦争へと傾倒していく中、真宗の教えの視点から非戦・平和を訴えられた方です。

また、部落差別解放運動に関わり、公娼街設置反対など、当時の社会があたりまえとしていた問題に目を向けられた方でもあります。

しかし、大逆事件で罪人として連座、また宗派からも追放されるという処分の中、失意のままに獄中死されました。

昨今、日本を取り巻く世界情勢は、様々な脅威にさらされていると言わざるを得ません。それに対して国内では、特定秘密保護法、安保関連法制、共謀罪などを制定し、テロ対策や防衛の名のもとに戦前に逆戻りしていくかのような様相を見せています。

このパネル展が、顕明師の事績に触れることを通して、非戦・平等の願いを確かめる機会となれば幸いです。

記

期間 2018年

3月21日(水)～

23日(金)まで

観覧時間 10時30分～

16時まで

展示会場 東北別院

本堂ならびに

参詣者控室

(宮城県仙台市宮城野区

小田原1丁目2-16)

TEL 022-297-2824

入場料 無 料



高木顕明 (1910年3月撮影)

【高木顕明】 愛知県に生まれ、縁あって得度、大谷派の僧侶に。1897年に新宮市に移住し、99年に浄泉寺の住職となる。門徒の職業差別事件をきっかけに、キリスト教信者と「虚心会」を結成し、部落問題に取り組み、廃娼運動にも参加する。貧しい人がより貧しくなることを危惧し、非戦を唱え、常に弱者の視点に立ち続けた。

著書『余力社会主義』(1904年)では「念仏の実践が社会主義である」と説き、「極楽世界には他方之国土を侵害したと云ふ事も聞かねば、義の為二大戦争を起したと云ふ事も一切聞かれた事はない」と反戦を訴えた。

10年の大逆事件で死刑判決を受け(翌日に無期懲役に減刑)、14年に秋田刑務所で自死した。大谷派は「住職差免」「擯斥処分」に処し宗門から追放したが、96年に処分を取り消し、遺族や門徒に謝罪した。